

交流センターだより

おおとし

No.126
令和元年
9月号

題名：あつ、流れ星！
お名前：田中 佳乃子さん
(中矢原)

発行 大歳地域交流センター TEL 922-4035 FAX 922-4036 人口 13,857 世帯数 6,700
開館時間 8時30分～17時15分 (行政窓口) TEL 922-2461 令和元年8月1日現在

第33回おおとし夏まつりが開催されました！



令和初めてのおおとし夏まつりは、8月3日(土)に開催しました。定期利用団体の方々、釜山奇兵隊によるステージアトラクションはとても素晴らしく、会場を盛り上げてくれました！出店では様々な食べ物、ミニゲーム等が催され、お祭りの雰囲気により一層引き立ててくれました！
そして、開催に至るまでの運営や猛暑の中準備に携わってくださった方々、本当にありがとうございました。

母推さんの子育て応援講座

～親子ヨガで楽しく体を動かしましょう～

日時：9月11日(水)

10時～12時(受付9時30分～)

場所：大歳地域交流センター 2階 和室

対象：首のすわった乳幼児と保護者

持参物：バスタオル、飲み物、オムツ

定員：15組(先着順)

講師：山田 綾香 先生



申込：大歳地域交流センター

(TEL 083-922-4035)

※9月2日(月)から申込み受け付け

「やまぐち車座トーク21」のお知らせ

やまぐち車座トーク21が大歳地域交流センターで開催されます。地域の皆さまと市長が直接気軽に語り合える場です。どなたでも参加できますので、ぜひ会場にお越しください。

日時：10月3日(木) 19時～

場所：大歳地域交流センター 2階 講堂

内容：市政報告、自由意見の交換

(市政や地域課題などの懇談)

問い合わせ：山口市広報広聴課

(TEL 083-934-2884)



「海辺の教室」inきらら浜 参加者募集！

～こども部会からのお知らせ(大歳小PTA、おやじガンバル会等の共催事業)～

今年も、大歳地域を飛び出し、昨年、ゆめ花博の会場として賑わった「きらら浜(阿知須)」で、“カヌー”や“スタンドアップパドルボード”など海辺のスポーツ体験をしてみませんか！？

○開催日時

・9月16日(祝・月) 9:00～15:00(雨天中止)

○集合時間・場所

・9:00までに、きらら浜(月の海前きららビーチハウス)へ集合
(現地集合・解散です)

○参加条件

・大歳地域の親子(子どもだけの参加はできません。)

○参加料

・1人500円(未就学児は無料)

○募集人員

50人程度(参加者多数の場合は抽選)

○申し込み

・9月6日(金)までに、大歳自治振興会事務局(TEL 083-920-1700)へ

○持参品など

・昼食(おにぎり)、飲物、帽子、運動靴、タオル、着替
(昼食のおかずは、BBQで対応します。)

・スタンドアップパドルボード、カヌー体験をされる方は、水着、長袖、短パン

○内容

9:00～9:30 現地受付、内容説明

9:30～11:30 海辺の体験①(※スタンドアップパドルボードほか)

12:00～13:30 昼食(BBQ)

13:30～14:30 海辺の体験②(ビーチフラッグほか)

14:30～15:00 周辺清掃、現地解散

(当日は、休憩も可能な研修棟、BBQハウスなどの屋内施設も借用し、使用可能です。)



市民登山教室 参加者募集！

～「三瓶山」と「琴引山」に登いませんか？～

登って良し、眺めて良し。島根の山は秋が一番です。初級～中級者向け、5時間30分程度の歩行時間です。

日程：11月2日(土)・・・琴引山(1,103m)は、奥出雲の山々、三瓶山が望める絶好の場所です。宿泊は琴引ビレッジ山荘です。

11月3日(日)・・・三瓶山(1,125m)は、島根県を代表する名峰。
360度の大展望です。

定員：先着35名 ※年齢制限無し。健康で団体登山が可能な方が対象。参加者20名以下の場合、登山中止。

参加費：2万4千円 ※この登山ツアーの手配先は㈱LEONです。

申込方法：往復はがきに、住所・氏名・生年月日・電話番号・登山用カップ(上下)・登山靴ザックの有無を記入のうえ、9月20日(金)までに、大歳地域交流センター(〒753-0861 山口市矢原1407-5)までお申込ください。

問い合わせ：山口山岳会 阿部(TEL 090-9460-3381)

○説明会について

日時：10月13日(日) 8時00分～9時00分

場所：萩往還夏木原交流施設※終了後、東鳳翔山への訓練登山を実施します。
登山申込者は登山具、弁当持参で、必ず御出席ください。



大人の居場所からのお知らせ

～9月はカラオケパーティー～

お茶しながら楽しく歌いましょう！

どなたでも参加できますので気軽にお越しください♪

日時：9月21日（土）

13時30分～15時00分

場所：大歳地域交流センター

1階 講座室

内容：お茶をしながらカラオケ

参加費：100円

問い合わせ：大人の居場所 代表 大窪

（TEL 080-2904-8193）



第42回地区対抗バドミントン大会を開催します！

下記の日程で大歳地区バドミントン大会を開催します。分館対抗戦と個人戦がありますので奮ってご参加ください。

日時：10月6日（日）開会式8時30分～

場所：大歳小学校体育館

種目：分館対抗の部（男子・女子・混合ダブルス）
クラス別の個人の部（混合ダブルス）

問い合わせ：大歳体育振興会

（大歳地域交流センター内）

（TEL 922-4035）

※出場申込は9月20日（水）までに各分館長または体育委員までお願いします。



ブックスタート体験会のお知らせ

絵本に関心を持ち始める時期の乳幼児とその保護者を対象に、絵本を無料で贈呈し、絵本を通して親子の絆を強めることができる「ブックスタート体験会」を開催します。ぜひ御参加ください。

日時：令和元年9月20日（金）

10:00～12:00

14:00～16:00

場所：大歳地域交流センター

対象：平成31年1月1日から平成31年3月31日の間に生まれた乳幼児とその保護者

問い合わせ：山口市立中央図書館

TEL 083-901-1040



太陽クラブからのお知らせ

～リトミック&茶話会で遊ぼう！～

リトミックとは、スイスの音楽教育家が開発した身体を使って音楽を楽しむ教育で、心と身体のバランスを整え集中力を身に付けることができます。

日時：9月27日（金）10時～13時

場所：大歳地域交流センター 2階 和室

講師：梅田よしえ先生

持参物：飲み物、お弁当（食べる方のみ）

対象：未就園児の親子

申込：太陽クラブ 代表 山根

（TEL 080-5207-5059）

※申込締切：9月20日（金）



10月1日から交流センター等利用料が変わります

消費税率が10%になることに伴い、交流センター、体育館、ナイターの利用料が変わります。

交流センター	午前	午後	夜間
講 堂	650(1660)	580(1480)	730(1850)
その他	220(560)	190(500)	240(630)

※冷暖房使用時は（ ）の金額を上乗せ

大歳小ナイター 1時間 1048円

大歳小体育館 1時間全面 210円

半面 105円

（10円未満切捨て）

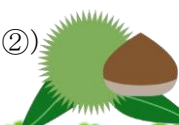
【大歳地区9月の行事予定】

- 2日（月）燃やせないごみの日
- 2日（月）お花作り（9:30～12:00）
- 6日（金）ぶっくん来館日（15:20～16:00）
- 8日（日）第13回山口市市民体育大会
- 9日（月）お花作り（9:30～12:00）
- 11日（水）母推さんの子育て応援講座（10:00～12:00）
- 12日（木）金属・小型家電製品の日
- 14日（土）大歳地区敬老祝賀会
- 16日（日）海辺の教室（9:00～15:00）
- 18日（水）びん・缶の日



- 20日（金）パソコン相談（10:00～12:00）
- 20日（金）ぶっくん来館日（15:20～16:00）
- 21日（土）大歳小学校運動会
- 21日（土）大人の居場所（13:30～15:30）
- 26日（木）古紙ペットボトル分別収集（大歳①）
- 27日（金）子育てサークル太陽クラブ（10:00～13:00）
- 28日（土）第6回交流列車おおとしまつり
- 30日（木）古紙ペットボトル分別収集（大歳②）

※木曜日はプラ容器包装分別収集



村の中を川は流れる その1

今は榎野川が大歳と平川の境界線となっています。しかし江戸時代には黒川村は平川側の田屋島・福良を含んでいましたし、矢原村も平川側の小原を含んでいました。逆に富田原は平川側の平井村に属していました。つまり、榎野川の中流域の3村はいずれも榎野川を挟んで村がつくられていました。こうした現象はなぜ起きたのでしょうか。有名な郷土史家の石川卓美氏は、榎野川は「山根の岩盤にあたって西北に向かい、平井の西北の富田原の北側を流れ、今の湯田駅の手あたりから、南に転じて平川地区に向かい、中野の西側を経て、恒富や平野の地先から下がり、山の腰を通過して小郡方面に流下」していたが「大洪水によって流路が激変し、現今のような川筋になった」と考えられており、これが原因となって川を挟んで村ができてしまったとされています（石川卓美著「平川文化散歩」参照、図1）。

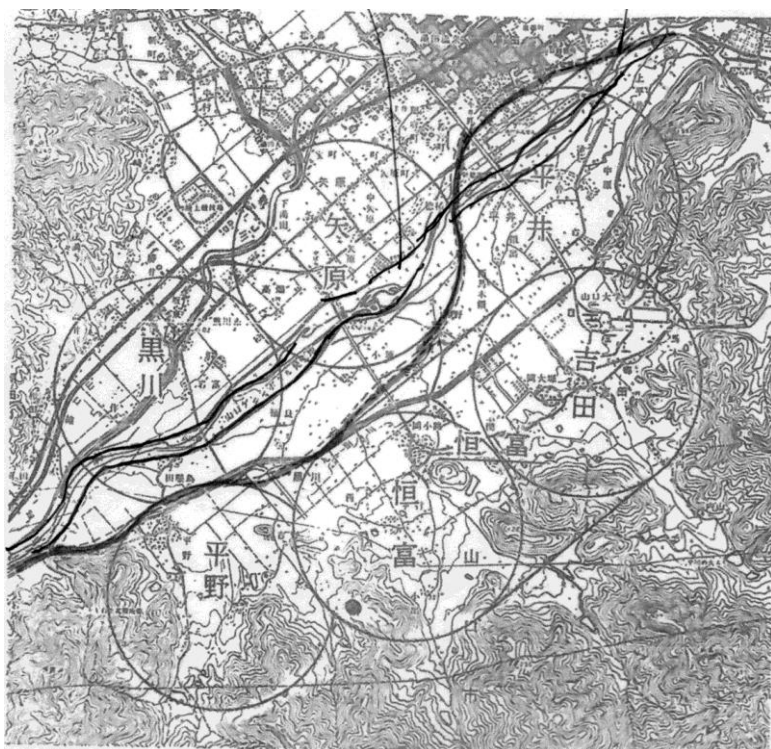


図1 ○囲みは現在の地図に鎌倉時代前後の村落を記したもの。中央の濃い太線が想定される当

ところが100年後の享保時代の「地下上申」の村絵図には、矢原村と平井村が登場しますし、その絵図では、この両村は、すでに黒川村と同様に榎野川を挟んだ村として描かれています。

この経過を素直にみれば、川を挟んで村をつくるほうが都合がよいという判断が働いたと考えるほうが合理的といえるのではないのでしょうか。

(大歳史談会、文責：武波義明)

暴れ川で、しばしば大洪水が堤防を決壊させた榎野川の歴史を考えれば、流路の変更はありそうな話ではありますが、古文書では確認できていません。また流路は堤防が決壊しただけでは変わりません。決壊した堤防を修復せず、流れの変化が放置されることが条件となります。

即ち、治水や新田開発、整備された水路網などが整っていない時代に起こる現象で、江戸期になってからは堤防を修復せず、せっかく切り開いた田んぼや水路網が無駄になってしまうことを放置したとは考えにくいのです。

ここに面白い絵図があります。関ヶ原の敗北から間もない慶長10(1605)年に防長2国に削減された毛利氏が幕府に提出した「国絵図」(図2)です。ここには黒川村がすでに榎野川を挟んで書き出されており、他方、矢原村と平井村とはまだ存在していません。

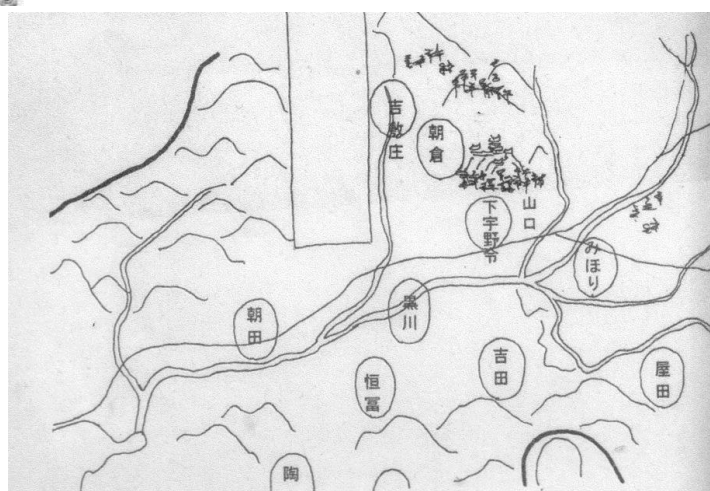


図2 慶長10年、毛利氏が幕府に提出した国

※訂正とお詫び

センターだより2ページ目に記載のある「市民登山教室 参加者募集」の欄の中で、琴引山の標高に標記ミスがありました。正しくは、×1,103m → ○1,013m になります。大変申し訳ございませんでした。